

1. 入出庫入力

倉庫別の商品在庫数を増減できます。倉庫間移動も可能です。

※新規登録・修正・削除、キー操作方法などは「伝票入力画面 共通基本操作」を参照してください。

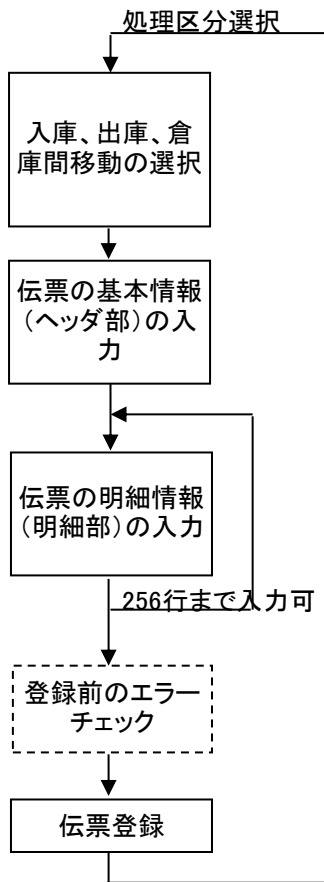
Point

・入出庫入力することにより、以下の業務が可能となります。

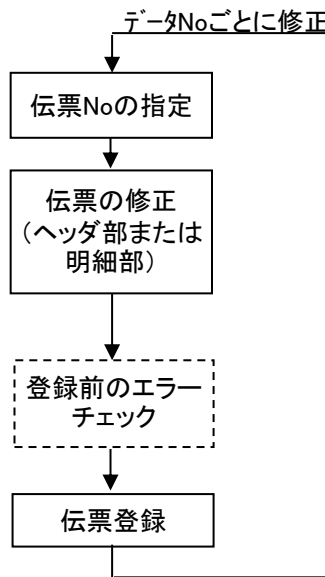
- ① 売掛や買掛などの発生なしで、商品の在庫数増減が可能。
- ② 倉庫間移動による商品の在庫数増減が可能。

1) 入出庫入力の操作の流れ

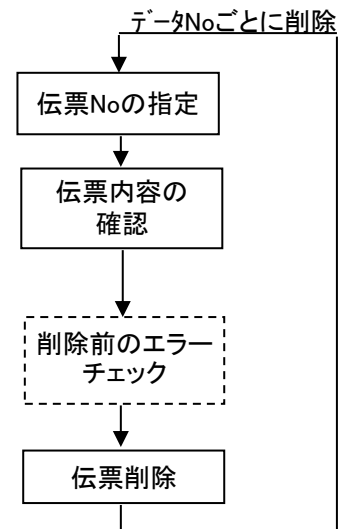
i) 新規登録



ii) 伝票修正



iii) 伝票削除



※入出庫伝票は伝票Noは重複可能ですので、
同じ伝票Noが存在した場合は、伝票一覧が自動で表示されます。
表示された中から対象となる伝票を選択します。

2) 基本情報(ヘッダ部) 項目の説明

入力画面の上部にある基本情報をヘッダ部と呼びます。
ヘッダ部には、1伝票共通で設定できる項目が表示され、入力することができます。

項目名称	説明
伝票No	入出庫伝票No。 採番管理登録の設定内容によっては重複することもあります。
処理区分	入庫、出庫、倉庫間移動から選択します。 棚卸入力で作成された伝票を指定した場合は「棚卸処理」が表示されます。 棚卸入力で作成された伝票は出庫伝票と同じ扱いになります。 棚卸した倉庫が出庫元倉庫に表示されます。
入庫先倉庫	処理区分が入庫処理または倉庫間移動の場合に指定できます。 入庫先の倉庫を指定します。
出庫元倉庫	処理区分が出庫処理または倉庫間移動の場合に指定できます。 出庫元の倉庫を指定します。
入出庫日	入出庫日(伝票日付)を入力します。 Point ・入出庫日には、運用設定で登録した入力期間制限を越える日付は指定できません。 伝票登録時にエラーチェックされます。
担当者	営業担当者を選択します。 初期表示される担当者は運用設定の登録内容により異なります。 当伝票がどの事業所の入出庫であるかは、担当者が所属する事業所で決定します。 事業所名は担当者横に表示されています。 事業所は伝票ごとに保持されていますので、登録後に担当者の所属する事業所が変更となってもデータにセットされた事業所は変更となりません。
摘要コード 摘要名	摘要を指定します。 コード欄ではSpaceまたはF4キーにて摘要マスタを検索して選択可能。 摘要名は表示後に訂正可です。 Point ・摘要はマスタより選択しなくても任意の文字を直接入力することができます。 ・マスタより選択後に、摘要名を変更した場合、その内容は当伝票にのみ有効です。マスタ内容は変更されません。

3) 明細情報(明細部) 項目の説明

入力画面の下部にある明細情報欄の入在庫する商品が指定できる箇所を明細部と呼びます。
明細部には、商品ごとに1伝票256行まで入力することができます。
各行を入力すると、画面下部の計行に各項目の総計が自動計算され表示されます。

項目名称	説明
行No	先頭から自動で行Noが付番される。 256行まで入力可能。 「*」マークの行は、まだ何も入力されていない行。 右クリックして表示されるメニューより「倉庫別在庫一覧表」を選択すると商品ごとの倉庫別在庫一覧が表示されます。
削除 (ボタン)	入力した行を削除する場合、この削除欄にマウスでチェックを入れます。 チェックを入れると行全体がグレー背景となり入力不可となります。 その状態で伝票登録すると、自動的に行削除されます。
伝区 (伝票区分)	選択した処理区分により以下の伝票区分が自動的に指定されます。 <ul style="list-style-type: none"> ・入庫 … 入庫処理の場合に選択されます。 ・出庫 … 出庫処理の場合に選択されます。 ・入出庫 … 倉庫間移動の場合に選択されます。 ・棚卸差 … 棚卸により作成された差異調整伝票です。 伝区「摘要」手入力を選択して入力可能です。 摘要の場合は、任意の文字列を品名に入力可能です。 品名欄でF4キー押下にて、摘要マスタから選択できます。その場合、品名に摘要名が設定されます。
商品コード	入在庫する商品コードを入力します。 コードの入力は必須となります。 コードを直接手入力するか、SpaceまたはF4キーにてマスター一覧より選択することもできます。 運用設定の登録内容によっては、Spaceキーでは商品マスタにて指定された事業所を参照し、ログオン担当者の所属する事業所と同じ事業所の商品のみを一覧表示することができます。 F4キーでは全商品一覧です。 Point <ul style="list-style-type: none"> ・コードを入力すると、商品マスタに設定されている「品名」「品名2」「入数」「単位」「商品種別」「単価」が自動表示されます。
品名	入在庫する商品名を入力します。 新規登録では、商品コード選択時に商品マスタの商品名が初期表示されますが、表示後の訂正は可能です。 ※商品台帳や在庫一覧に印字される商品名は商品マスタの登録名称です。 Point <ul style="list-style-type: none"> ・品名は入力必須ではありません。 ・マスタより選択後に、品名を変更した場合、その内容は当伝票にのみ有効です。商品マスタ内容は変更されません。

項目名称	説明
品名2	<p>入在庫する商品名の補足情報を入力します。伝区が摘要の場合は任意文字列を入力します。商品コード選択時に商品マスタの品名2が初期表示されますが、表示後の訂正も可能です。</p> <p>Point</p> <ul style="list-style-type: none"> ・品名2は入力必須ではありません。 ・マスタより選択後に、品名2を変更した場合、その内容は当伝票にのみ有効です。商品マスタ内容は変更されません。 ・品名2のタイトル名称は運用設定にて変更できます。
数量	<p>Point 入る商品数量を入力します。</p> <p>Point</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数量の入力は必須ではありませんが、在庫管理する場合は、数量入力がないと在庫の増減はされません。 ・数量の少数以下桁数は、運用設定にて修正可能です。
単価	<p>在庫金額計算で使用する単価を入力します。新規伝票では、商品マスタの売上原価計算法の設定に応じて初期表示される単価が変わります。 (売上入力時の原価が、入在庫での単価となります)</p> <p>Point</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単価の入力は必須ではありませんが、在庫金額を管理するには入力が必要です。 ・単価の少数以下桁数は、運用設定にて修正可能です。
金額	<p>数量 × 単価の値が表示されます。在庫金額は入在庫明細表などに印字されます。</p> <p>Point</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数量や単価を入力せずに在庫金額のみの手入力も可能です。

項目名称	説明
備考	明細行の備考として任意の文字列を入力できます。
受注No 受注行No	<p>明細行を受注伝票と紐付ける場合に指定します。 SpaceまたはF4キーにて受注明細検索画面が表示されるので、そこから選択します。 出庫処理の場合のみ指定できます。</p> <p>Point</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受注No、受注行Noを設定すると、受注No別原価表で出庫金額(=原価)として集計されます。 ・受注→売上する商品とは違うが関連する場合(商品を組み合わせる完成品を売る場合)に設定します。
マーク (ボタン)	<p>マークをマウスでクリックし、チェック状態にすることで明細行にマーク(印)をつけることができます。</p> <p>入出庫明細表の絞り込み条件にて、マーク(全て、有り、無し)を選択して出力することができます。</p>

4) 明細情報(計行) 項目の説明

明細部の下に横並びに表示されている箇所を、計行と呼びます。

計行では入力できる項目はありません。明細部の情報を集計して、その結果を表示します。

項目名称	説明
実在庫数量	<p>明細行を選択すると、その行の商品の実在庫数が表示されます。(帳簿在庫)商品が、選択されている倉庫に登録されていない場合は、何も表示されません。伝票登録時に実在庫数量で在庫割れチェックをしている場合、数量の文字が赤字で表示されます。</p> <p>Point</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実在庫数には現在明細行に入力中の数量も反映されます。 ・実在庫数量は同時入力端末の情報も含め、リアルタイム処理で集計されています。 ・倉庫間移動の場合は、出庫元倉庫の在庫数が表示されます。
有効在庫数量	<p>明細行を選択すると、その行の商品の有効在庫数が表示されます。商品が、選択されている倉庫に登録されていない場合は、何も表示されません。伝票登録時に有効在庫数量で在庫割れチェックをしている場合、数量の文字が赤字で表示されます。</p> <p>Point</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有効在庫数には現在明細行に入力中の数量も反映されます。 ・在庫数の詳細については「在庫計算の考え方」マニュアルを参照してください。 ・倉庫間移動の場合は、出庫元倉庫の在庫数が表示されます。
合計数量	伝票の合計数量を表示します。

5) その他補足事項

- ・倉庫間移動した場合は、入出庫明細表では入庫数と出庫数の両方が出力されます。商品台帳では伝区に「入出庫」と出力され、入庫先の倉庫と出庫元の倉庫に出力されます。また、在庫一覧表で倉庫別に出力しなかった場合は入庫数と出庫数どちらにもカウントされます。

- ・売上原価計算法で倉庫別移動平均を採用している場合、単価は以下の方式にてリアルタイム処理で計算されます。(金額は全て税抜で倉庫別に計算)
(開始残高日、開始残高数量、開始残高金額は「システム管理」-「倉庫別商品登録」にて登録します。)

① 発生数量、発生金額の決定

$$\begin{aligned} \text{発生数量} &= \text{開始残高日から期間開始日までの入出庫数計} \\ \text{発生金額} &= \text{開始残高日から期間開始日までの入出庫金額計} \end{aligned}$$

② 倉庫別移動平均単価の決定

$$\text{倉庫別移動平均単価} = (\text{開始残高金額} + \text{発生金額}) / (\text{開始残高数量} + \text{発生数量})$$

※少数以下の端数は商品マスタの金額端数設定に従う。

※倉庫別移動平均単価や最終仕入単価が0の場合は、標準原価単価が採用される。

※倉庫間移動の場合は、出庫元倉庫の金額が採用される。

2. 棚卸入力

実地棚卸数を倉庫別の商品別に入力できます。

Point

- ・ 棚卸入力した内容は商品台帳や棚卸リストで確認できます。
- ・ 登録した棚卸伝票は入出庫入力より修正することができます。
- ・ 差異数量 ≠ 0の商品のみ登録されます。

1) 棚卸入力手順

- ① 棚卸を実施する倉庫を選択します。
- ② 商品を抜粋する場合、その範囲を指定します。
- ③ 棚卸日を年月日で指定します。

Point

- ・ 棚卸日には前回棚卸日より前の日付は指定できません。
- ・ 決算日の日付部分と棚卸日が異なる場合(決算日が月末で棚卸日に20日などを指定した場合)、警告メッセージが表示されます。

- ④ Enterキーにて指定した条件の全商品の一覧が表示されます。
(商品数が多い場合、表示されるまで長時間かかる場合があります)

商品コード	品名	型番・規格	単位	帳簿在庫数量	実地棚卸数量	差異(出庫)数量	棚卸評価法	備考
1	テスト商品			0.0	0.0	0.0	標準原価	
2	A010005 #2			0.0	0.0	0.0	標準原価	
3	A010006 RGD			0.0	0.0	0.0	標準原価	
4	A010007 RGD			0.0	0.0	0.0	標準原価	
5	A010008 ハナ		台	0.0	0.0	0.0	標準原価	
6	A010009 ハナ		台	0.0	0.0	0.0	標準原価	
7	A010011 HAN		台	0.0	0.0	0.0	標準原価	
8	A010012 HAN		台	0.0	0.0	0.0	標準原価	
9	A010013 HAN			0.0	0.0	0.0	標準原価	
10	A010014 HAN			0.0	0.0	0.0	標準原価	
11	A010015 RFC			0.0	0.0	0.0	標準原価	
12	A010016 HAN			0.0	0.0	0.0	標準原価	
13	A010017 RFC			0.0	0.0	0.0	標準原価	

- ⑤ 担当者は、倉庫マスタで指定されている担当者が初期表示されますが、変更可能です。担当者はシステムが自動で作成する棚卸伝票の主担当者となり、入出庫伝票と同様、この担当者の所属する事業所が、棚卸データの事業所の判別に使用されます。
※摘要欄は任意の文字列を入力可能です。
- ⑥ 一覧には倉庫別の商品が表示されます。
実施棚卸の結果が、帳簿在庫数と異なる場合のみ、「実地棚卸数量」列に数値を入力してください。入力した結果から棚卸差異数が自動計算され、差異の分だけ、棚卸伝票が自動で作成されます。すべて出庫伝票で作成されます。差異数量が 20だった場合、20の出庫伝票が作成されます。
- ⑦ 実施棚卸金額は実施棚卸数量と在庫単価より自動計算されますが、修正は可能です。
- ⑧ 必要に応じて備考欄を入力します。備考欄の文字は商品台帳に印字されます。
※備考欄およびマークは差異(出庫)数量≠0の場合のみ入力できます。
- ⑨ 更新ボタンにて棚卸終了です。

2) 棚卸入力の補足事項

- ・在庫単価は商品マスタの棚卸評価法により自動計算されます。
棚卸評価法で倉庫別移動平均を採用している場合、単価は以下の3段階方式にてリアルタイム処理で計算されます。(金額は全て税抜で倉庫別に計算)
(開始残高日、開始残高数量、開始残高金額は「システム管理」-「倉庫別商品登録」にて登録します。)

① 発生数量、発生金額の決定

$$\begin{aligned} \text{発生数量} &= \text{開始残高日から期間開始日までの入出庫数計} \\ \text{発生金額} &= \text{開始残高日から期間開始日までの入出庫金額計} \end{aligned}$$

② 倉庫別移動平均単価の決定

$$\text{倉庫別移動平均単価} = (\text{開始残高金額} + \text{発生金額}) / (\text{開始残高数量} + \text{発生数量})$$

※少数以下の端数は商品マスタの金額端数設定に従う。

※倉庫別移動平均単価や最終仕入単価が0の場合は、標準原価単価が採用される。

- ・棚卸差異が0となっている行は棚卸伝票は作成されません。

- ・棚卸した場合、商品台帳の伝区には「棚卸差」と出力されます。

- ・棚卸した場合、商品の数量や在庫金額は、棚卸の結果が強制的にセットされます。
在庫数・在庫金額計算に棚卸日から棚卸の数値で再スタートとなります。

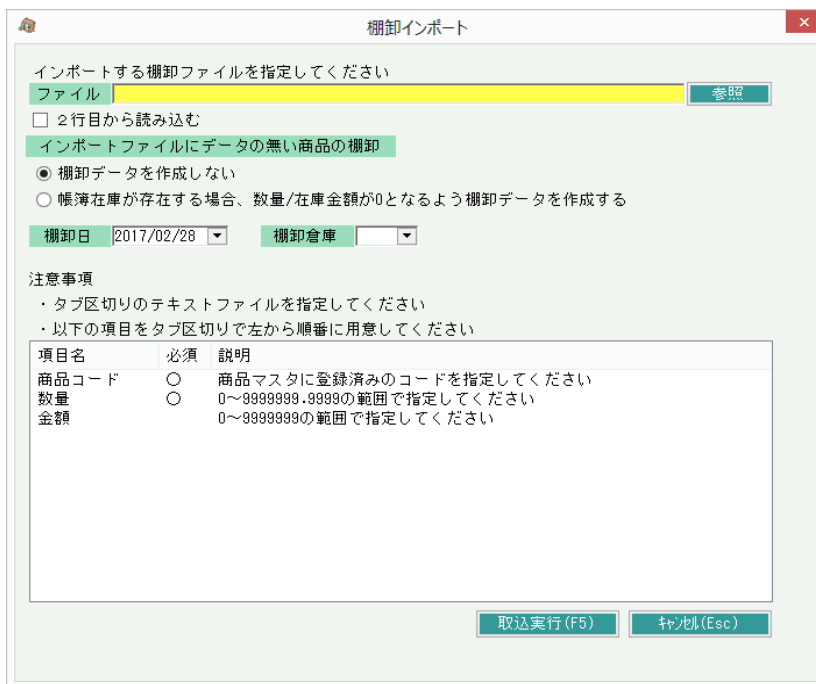
ただし、棚卸後に棚卸日以前の売上、入出庫伝票などを修正し在庫数に変動した場合は数量を確認して、必要であれば再度棚卸入力を実施する必要があります。

- ・ある倉庫の商品を抜粋して例えば2月末で棚卸した場合、同一倉庫にあるその他商品は1月以前で棚卸日で棚卸ができません。(前回棚卸日と同一日以降なら棚卸可能です)

3) 棚卸インポート



①インポートボタンを押します。



②参照ボタンから、インポートするファイルを指定します。

③棚卸日を指定します。

④棚卸を行う棚卸倉庫を指定します。

⑤取込実行ボタンを押します。

Point

インポートファイルにデータの無い商品の棚卸

- ・棚卸データを作成しない
インポートファイルにデータが無い商品については棚卸データは作成されません。
- ・帳簿在庫が存在する場合、数量/在庫金額が0となるよう棚卸データを作成する
インポートファイルにデータが無い商品は、数量、金額が、0となるように棚卸データを作成します。

《インポートファイル作成時の注意事項》

- タブ区切りのテキストデータで作成してください。
- 商品コード、数量は必ず指定してください。